

第4回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日時 平成22年3月1日（月）午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 京都市東部文化会館 1階 創造活動室
- 3 出席者 幸田副座長，板倉委員，太田委員，岡久委員，奥田委員，川嶋委員，河村委員，木村委員，小山委員（代理出席），佐治委員，澤田委員，高山委員（代理出席），竹之内委員，谷川委員，出竿委員，羽立委員，樋口委員，日比野委員，松本委員，本島委員，森委員，山口幸秀委員
- 4 内容
 - 議事①：区内団体における若手の意見について（報告）
 - 議事②：新たな「山科区基本計画」の策定方針について
 - 議事③：新たな「山科区基本計画」の全体構成について
 - 議事④：「山科区基本計画（素案 VOL.1）」について
 - 議事⑤：平成22年度の取組について

5 説明（議事①，②，③，④，⑤）

区内団体における若手意見，新たな「山科区基本計画」の策定方針，全体構成，「山科区基本計画（素案 VOL.1）」，平成22年度の取組について，事務局から説明した。

6 承認事項

（1）新たな「山科区基本計画」の策定方針について

基本方針や取組の数が変動する可能性はあるが，将来像を頂点としたピラミッド型の構成とすることを，全委員が承認した。

（2）新たな「山科区基本計画」の全体構成について

○ 全体構成を次の構成とすること。とりわけ，現行計画では，5つの基本施策と6つの重点施策の両方で体系化していたが，新計画では5つの基本施策のみで体系化して分かりやすくすることを，全委員が承認した。

- ・ はじめに
- ・ 山科区の動向
- ・ 山科区フロンティア計画（平成13年～22年）の総括
- ・ 将来像
- ・ 5つの基本施策を柱とした構成
- ・ 計画の推進に向けて
- ・ おわりに

○ 基本施策は，グループワークを実施した分野と同様の5つ（①環境，②まちの魅力・観光，③交通・都市基盤，④保健・福祉・子育て支援，⑤地域のつながり）とすることを，全委員が承認した。

7 各委員からの意見要旨

（1）環境について

○ 現行計画で取り組む「花の回廊」や「花いっぱい運動」を引き継いで，山科地域に花や木，緑があふれるように，地域を見渡して新たな緑化ゾーンを考えていけば良いと思う。

- 地球環境問題は、我々のライフスタイルを変えることが問われており、そのためのきっかけとなる取組を、今後、検討していきたい。
- 安朱学区自治連合会では、環境家計簿に取り組んでいるが、次の展開が重要である。
- ごみの問題は、来年度から正式に立ち上がる山科全学区のごみ減量推進会議の中で、活動を通じて普及させていきたい。
- 伏見区の京エコロジーセンターでは、様々な活動を展開しており、自治連合会等が区役所と連携し、活動していけば、効果が出てくるのではないかと。

(2) まちの魅力・観光について

- 歴史の保全と活用については、山科にはそうしたものが沢山あるが、まだ十分な整備や紹介ができていない。また、観光案内所をできるだけ早く設置したい。
- お祭りはできるだけ多くの方が参加できるように、休日に開催した方がよい。
- 学生が山科のマップやチラシを作成しているが、それらが山科の人に知られておらず、連携が十分ではないと感じる。
- 観光マップにもう少し重きを置いて、山科が表に出られるよう支援をしたらどうか。マップをみんなが欲しがるとなるようなポスターにしたらどうか。
- 山科は、道が狭く、曲がりくねっている。これを良いように捉えてはどうか。京都の中心部は基盤の目の幾何学的で計画的な都市空間であるが、山科は三条通と五条通が会う、地形と人の営みに即して形成された空間である。
- 小学校のグラウンドを土曜日や日曜日、夜間に開放し、地域が自由に使えるようになっている。スポーツを通じて親睦、健康の維持に力を入れていきたい。

(3) 交通・都市基盤について

- 一方通行化や歩車分離については、現行道路を見直し、地域での検討によってできるのではないだろうか。
- 三条街道の電線の地中化に取り組んでほしい。
- 道路とバスの問題について、災害予防の視点から、大災害からの復興のシミュレーションを行うのも1つの方策ではないだろうか。
- バス路線網など、山科区と醍醐地域が有機的につながっている。道と足の問題は醍醐地域を視野に入れる必要がある。醍醐地域にはコミュニティバスが走っているが、山科との関係を考えていく必要がある。
- 自転車放置が多いので駐輪所を整備してもらいたい。そのことで、歩道も整備され、花の手入れもしやすくなると思う。
- 区民自らが気づいて、交通マナーを向上させていくことが必要である。
- 小学校4年生を対象とし、所定の技能、交通安全の知識等を事前に受講し、京都府警が免許を交付する「自転車免許制度」を行なっている。これらは、半日でできることであり、全小学校でカリキュラムに位置付けてはどうか。中学校や高校でも取り組めたら良い。また、幼稚園等、小さい時からの教育も大切である。
- 自転車免許の講習会については、全ての学年ではなく、学年を決めて行なうのが良い。学校によって、人数、グラウンドの広さなど環境が異なるため、先進的にされている学校の事例に学びながら授業でやっていくことが必要である。

- 子どもだけでなく、親も含めて安全教育、安全指導が大切である。併せて、命の大切さ、心の指導が重要である。

(4) 保健・福祉・子育て支援について

- 地元団体の会員においても高齢化が進み、会員が会員を支える状況になっており、今まで以上に周りからのサポートが必要である。
- 祖父母による「孫育て」と考えて子どもを育てることができる。年を重ねているからこそできる子育てがある。
- 知的障害者を始め、障害のある子をもつ親は、親亡き後のことが一番の悩みの種となっている。グループホームや福祉ホームが地域にできればと思っている。
- 男女共同参画社会だけでなく、若者、年寄り、男性、女性、学校、色々な文化を尊重することが大切である。多文化共同参画社会は、おもしろく、夢があると思う。
- 歩道は車椅子が通れるようになってきたが、耳の聞こえない方が、自転車にぶつかることがある。山科は道が狭いが、うまく対応できればと思う。

(5) 地域のつながりについて

- 地域の最小単位は「向こう三軒両隣」だと思う。最近では、少子・高齢化、核家族化に加え、生活様式が変わり、地域内のコミュニティが希薄化している。
- 地域にあるマンションの自治会、町内会への未加入の問題がある。地域の安心、安全の面から、全員が町内会、自治会に所属して一緒に行動することが大切だと思う。
- 20代から30代の方をいかにボランティア活動などに引っ張り込み、山科を良くしていくのかを考えないといけない。
- 弱まっている地域の力、地域内のコミュニティの希薄化といった面を少しでも、力に変えていこうというのが、今回作っている計画である。
- 「行政サービスの利便性向上」は良くない。行政がサービスを提供して、市民が受けるという構図を脱しきれていないことの象徴である。区民の声を聞く仕組みが大切であり、そのことを明記すべきである。

(6) 計画について

- 最近、京都市の中でも山科区が注目されていると感じている。
- 山科の素晴らしいところと課題の両方をきちんと盛り込んだ形で計画に反映させていかなければいけない。
- 10年後を見据えた取組として、「みんなでやるとしたら、どんなことができるか」を検討し、区民の熱い思いを盛り込んだ計画にしたい。
- 財政的に厳しいと思われるものでも、これだけはやるという決断ができるのが、10年に一度の総合計画を策定するこの時期であると思う。厳しい中で取組を実現する覚悟を皆が持つ必要がある。
- 取組の評価をどうするのかを検討していく必要がある。
- 山科青少年活動センターが発行した冊子「まちにとどけ ワカモノの声」の若者の意見を取り上げてもらいたい。
- 若者が、声を上げて、それを地域が支える仕組みが山科にはあると感じている。